

関東労災病院卒後歯科臨床研修プログラム

1. 臨床研修プログラムの名称

関東労災病院卒後歯科臨床研修プログラム

2. プログラムの特徴

本プログラムは、病院歯科における有病者や口腔外科的疾患に携わることにより、患者の全身状態および社会的背景を考慮した歯科診療を習得できる、全人的医療を目指す歯科医師のための歯科臨床研修プログラムである。

3. 臨床研修の目標

1. 歯科医師として求められる診療に関する知識・技術を実地に鍛錬し、自ら診療能力を開発できる基礎を養う。
2. 多職種と連携して有病者や口腔外科的疾患の診療に携わり、全身状態及び心理的・社会的背景を考慮した歯科診療を習得する。
3. 患者及び医療者の安全への配慮を身につける。
4. 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を理解する。

4. 臨床研修施設の概要

当院は京浜工業地帯に働く勤労者のための医療の推進と地域医療の充実を目的に、昭和 32 年に労働福祉事業団により設立され、昭和 36 年に総合病院として承認された。現在は独立行政法人労働者健康安全機構により運営され、地域の中核病院として急性期医療に積極的に取り組んでいる。

病院長：根本 繁

病床数：610 床（うち定床数 12 床）

診療科：内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、腫瘍内科、神経内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科（スポーツ整形外科、脊椎外科）、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、乳腺外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、臨床検査科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科 [33 診療科]

常勤歯科医師：6 名

ユニットチェア：9 台（うち身障者用 1 台）

5. 臨床研修責任者

総括責任者：病院長 根本 繁

指導責任者：歯科口腔外科部長 堀江 彰久

6. 募集定員及び募集方法

(1) 募集定員：2 名

(2) 募集方法：全国公募（マッチングシステムによる）

7. 選考時期及び方法

- (1) 選考時期：毎年8月前後に選抜試験実施
- (2) 選考方法：マッチングシステムによる選考を行う。
- (3) 選抜内容：①筆記試験による評価
②面接試験による評価

8. 研修内容

1) 研修概要

関東労災病院歯科口腔外科外来・病棟での研修を主として一年間研修を行う。

患者を一個人として、咀嚼・発音・嚥下などの生理機能回復を目的とした歯科治療を目指し、外来・病棟等において指導医に従って診断・治療に必要な知識と技能を習得する。

全身疾患を合併している患者については、歯科治療計画を立てる際にそれら基礎疾患に対する十分な知識の習得や他科処方薬の薬剤に対する理解を深める。また、病棟での患者の治療や口腔ケアの技術・知識・社会的課題について研修する。

- ・ 問診のとり方・全身状態の把握
- ・ 理学検査・静脈路確保などの手技、検査データの解読
- ・ 系統だった治療計画に基づく歯周・保存・補綴治療
- ・ 有病者の治療、感染症患者の管理
- ・ 簡単な口腔外科手術手技、入院下での患者の全身管理
- ・ 要介護者の口腔内ケア
- ・ 口腔がん治療の概念の把握

2) 教育に関する機会

オリエンテーション	研修開始時に院内諸規定・施設設備の概要と利用法・文献と病歴検索法・健康保険制度・医事法規・関係各科の概要について説明を受ける。
症例検討会	1週間に1回、問題点について討議する。
CPC（臨床病理検討会）	奇数月に開催されるCPCに参加する。
研修医講義	主に集合研修期間に開催される医科の研修医講義に参加する。
緩和ケア研修会	厚生労働省健康局長より修了証書が交付される研修会に参加する。
剖検	呼び出しに応じて見学する。受け持ちとして立ち会った場合は抄読会で剖検報告を行う。
抄読会	週1回開催される。指導歯科医の指名により発表を担当する。
初期研修医症例発表会	院内で年2回開催される。歯科研修医は後半の回で発表を行う。

3) 指導体制

指導歯科医の監督のもとに問診・初診診察・治療を行う。病棟では特に指導医の密なる指示を受ける。

4) 到達目標及び評価

A. 歯科医師としての基本的価値観

評価方法：指導医及び指導者が日常の研修姿勢を観察し評価する。

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

評価方法：指導医及び指導者が日常の研修姿勢を観察し評価する。2. から 7. については到達目標 C. 基本的診療業務の項に具体的な到達目標を示す。

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C. 基本的診療業務

- ・「必修」項目は研修プログラムに設定された到達目標を達成するために必要な症例数のうち60%以上を含む。
- ・「選択」項目は、「1. 基本的な診療能力等」における「選択」項目から1項目以上、「2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等」における「選択」項目から2項目以上を選択すること。ただし、必ず「(2) 多職種連携、地域医療」の項目を含むこと。

評価方法：指導医による実症例の評価。

1. 基本的診療能力等

本項目は、関連する「B. 資質・能力」の「2. 歯科医療の質と安全の管理」「3. 医学知識と問題対応能力」「4. 診療技能と患者ケア」「5. コミュニケーション能力」に相当する具体的な到達目標を示す。

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。(必修 3 症例)
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。(必修 3 症例)
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。(必修 3 症例)
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。(必修 3 症例)
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。(必修 3 症例)
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。(必修 3 症例)

(2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。(必修 3 症例)
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。(必修)
 - a. 歯の硬組織疾患 (3 症例)
 - b. 歯髄疾患 (3 症例)
 - c. 歯周病 (5 症例)
 - d. 口腔外科疾患 (10 症例)
 - e. 歯質と歯の欠損 (1 症例)
 - f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下 (1 症例)
- ③ 基本的な応急処置を実践する。(必修 5 症例)
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。(必修 10 症例)
- ⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。(必修 3 症例)
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。(必修 2 症例)

(3) 患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。(必修 2 症例)
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。(必修 2 症例)
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。(必修 2 症例)
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。(必修 2 症例)
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。(選択 2 症例)

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。(必修 2 症例)
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。(必修 2 症例)
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。(選択 1 症例)
- ④ 障害を有する患者への対応を実践する。(選択 1 症例)

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

本項目は、関連する「B. 資質・能力」の「6. チーム医療の実践」「7. 社会における歯科医療の実践」に相当する具体的な到達目標を示す。

(1) 歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。(必修 2 症例)
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。(必修 2 症例)
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。(必修 2 症例)

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。(必修 1 症例)
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。(必修 1 症例)
- ③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。(選択 1 症例)
- ④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。(選択 1 症例)
- ⑤ 離島やへき地における地域医療を経験する。(選択 1 症例)
- ⑥ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。(選択 1 症例)
- ⑦ 歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。(選択 1 症例)
- ⑧ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。(選択 1 症例)

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。(必修 1 症例)
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。(必修 1 症例)
- ③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。(選択 1 症例)
- ④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。(選択 1 症例)

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。(必修 1 症例)
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。(必修 1 症例)
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。(必修 1 症例)

9. 歯科臨床研修管理委員会

プログラムと臨床研修医個々の研修状況を把握し、管理・評価を行う目的で歯科臨床研修管理委員会を設置する。委員は、院長、卒後研修管理室長、プログラム責任者、他職種の実任者、外部有識者等で構成される。

10. 指導医

臨床経験が7年以上で、指導歯科医講習会を受講した者で、教育熱心な医師を指導医として研修管理委員会が選出し、院長が委嘱する。

指導医は研修内容の把握に努め、病歴や手術の要約の作成を指導する。

11. 研修歯科医評価

研修終了時に研修歯科医による自己評価、各指導歯科医・メディカルスタッフによる評価を行い、これを歯科臨床研修管理委員会を確認する。

12. プログラム修了の認定

研修歯科医が到達目標を達成したことを歯科臨床研修管理委員会の認定により確認の上、病院長より研修修了証を授与する。

13. 研修歯科医の処遇

身分	常勤職員（嘱託職員）として採用する
勤務時間	午前8時15分～午後5時00分、週休2日制 当直の義務はないが、必要に応じて夜勤・休日出勤を行う。
休暇	年次有給休暇、夏季休暇、年末年始休暇、他就業規則に定める休暇有り
給与	1年次月額29万円（時間外手当・当直手当を含む） 賞与別途支給あり（一時金）
社会保険	健康保険、厚生年金に加入 労働者災害補償保険法の適用有り
宿舎	有り（単身用宿舎、月額8,000円程度）
研修医室	有り（インターネット利用可能な研修医専用机）
健康診断	年2回
医師賠償責任保険の取扱い	病院において加入 個人加入は任意（加入を推奨する）
学会、研究会への出席	参加可（参加費用は原則個人負担、一部補助有り）
アルバイト	研修中厳禁

14. 図書室

(1) 広さ：195.2㎡

(2) 医学図書数：国内図書 4,730冊、 国外図書 1,099冊

(3) 医学雑誌数：国内雑誌 120タイトル（他メディカルオンライン 877タイトル）

国外雑誌 136タイトル（他MEDLINE with Full Text 1,460タイトル）